

テーマ5 常時水没している構造物点検の効率化技術（高槻市）

現 状

ポンプ場等は、設置から50年以上が経過している。電気機械設備は、劣化状態を調査し、長寿命化対策を実施しているが、土木構造物は調査を行っておらず、手付かずである。

課 題

- 内部の水を抜く必要があり、特に水路隣接の場合は、現実的に不可能である。
- 内部に足場を組むなどの仮設が大規模になる。
- 古いものは、詳細な図面がない。

求める技術

- 【 求める技術 】
- 躯体の劣化状態等（クラック、剥離、内部の堆積物等）を、調査できる。
 - 躯体の寸法（可能であれば配筋）を、調査できる。

求める条件

- 【 条件 】
- 水を抜くことなく、遠隔（自動）で調査ができる。

